園長だより NO１２０

新しい年を迎えもうすぐ１か月が経とうとしています。

進級、就学までのあと数か月、この時期は１年の締めくくりと言われていますが、子どもの育ち、暮らしは継続的に続くわけで締めくくるわけにはいかないのです。

私は年度終わりの数カ月は充実期ととらえている。入園、進級から暮らしを共にしてきた子ども達が時間の経過とともに気心が知れた間柄（関係）になっていく、怒ったり、泣いたり、時には喧嘩したり、自分を主張し表現し互いの心を子どもなりにわかっていく、一人、ひとりが自分のしたいこと、やりたいことを十分できることを通じて、次第に共に生活する子への関心や関わりへと発展していく、年長児にもなれば自分のやれることへの見通しと自信が生活への安定感へとつながる。

大好きな仲間とじっくりと遊べるこの時期こそが充実する期間と考えてる。

自園の保育理念とは

１０数年前、園長になりたてのころ初任者の所長研修を受けました。現在も駆け出しの園長には研修参加が義務になっています。

会場にはなりたての新米園長が数百人いて、神妙な面立ちで座っている姿が印象に残っています。私はといえば誰か知り合いはいないかなとキョロ、キョロ、会場には４人程知り合いがいました。皆、数十年ぶりの懐かしい面々であった。　緊張とは程遠い小さな同窓会のようにわくわくしながら数日通い、研修を受けました。

タイトルにある。自園の保育理念についてはその研修で提出したレポートです。
ついこないだ書類を整理していたら、そのレポートが出てきて、「当時はこんなこと考えていたんだ」「今に繋がっているのかな？」と回想したわけです。

気難しい文面ですが書き記します。
こども、ひとりひとりが心身ともに豊かな成長をしていくために乳幼児に相応しい生活の場所を保証していく。自立した生活を営むためには乳幼児のこの時期にこどもなりの自治的な生活を営めるように考えている。ひとり、ひとりが一人の人として、主体として生活できるように考える。こども自らが考え、仲間と共に生活（活動がこどもの力で取り組み、賄えるように考える）大人から一方向な考えで望むこども像に近づけることは避けたい。何よりも大切にすることはこどもの理解である。

目の前にいるこどもの心情、興味関心、育っている、育とうとする姿、様々な観点からこどもを感じ、こどもの経験、体験してほしい保育内容を考え整えていく、こどもの生活基盤を作るためのこどもを知ることが大切である。様々な観点から微視的な理解が相応しい環境を作り出す。尽きることのない探求心と惜しみない労力、こどものよき理解者であることが理念の根本になる。

数十年前のレポートであるが具体的なプランは示されていない、保育、子どもとの暮らしで大切にすることはまだまだある。

当時考えていた保育（暮らし）は実を結んでいることが多くあります。こどもの声に耳を傾け、こどもの心情に寄り添い、こどもの思いが実現できる生活を実践してきました。

過去にはこどものためにと一生懸命考え取り組んだ時期があったのも事実、こどものためにと考えた計画が振り返ればこどもの興味、関心や意欲がその計画に反映されていないものもあった。保育者（大人）の考え、思いが先行した内容であり、教える側と教えられる側、させる側とさせられる側の関係で取り組む内容もあった。保育士がこどもたちを誘導し引っ張ることもあった、こどもの主体とは程遠い保育が行われていたことから抜け出し、こども主体の園生活（暮らし）を考えてきた経過が現在に繋がっています。

大人主導で考えてきた計画ではこどもはなんとも窮屈であったろう、こどもの表現とはもっと自由に開放的であってほしい、その願いの成就にはこどもの遊びの中にこそいきいきと生活する（生きている）と実感できるものがあると考え、今日に至っています。

こども主体になると自由過ぎて秩序がなくなるのでは？　好きなことばかりやっていると我慢できない子になるの？　自分勝手で仲間と協力できないの？　はたまた学校生活に対応できない子になるの？など　懸念する保護者もいるはずである、ただ、「お行儀のいい子」「いわれたことを素直に行う子」が美徳とされた時代があったが大人の都合の良い子どもに育ててしまうことほど、こどもにとって不幸である。

こどもが自分自身を打ち込みひたむきに没頭して遊ぶ姿を園生活で生み出すことに保育の役割や働きかけがあるのではないかと思う。こども達が楽しく遊ぶこと自体におおきな価値があるのです。その姿に吸い寄せられ、引き込まれ、こどもの声に耳を心をよせて共に暮らしを豊かにしていこうと動いているのです。

保育の変革も多様でありそれぞれの園が変化している。今がすべて良しではない。子どもの姿は日々異なる。私たちも変化しなくてはならないし、その多様性に順応できる眼を養っていかなくてはならない。
１０数年前のレポートから今につながるものがあり、未来、近い未来に上書き、または是正しその時代にあった保育理念を持つことの必要性を感じています。

（おおぞら保育園長　廣部信隆）
2026.1.29